

The world's finest perfectly cut Millennium Diamonds

EIGHTSTAR[®] DIAMOND

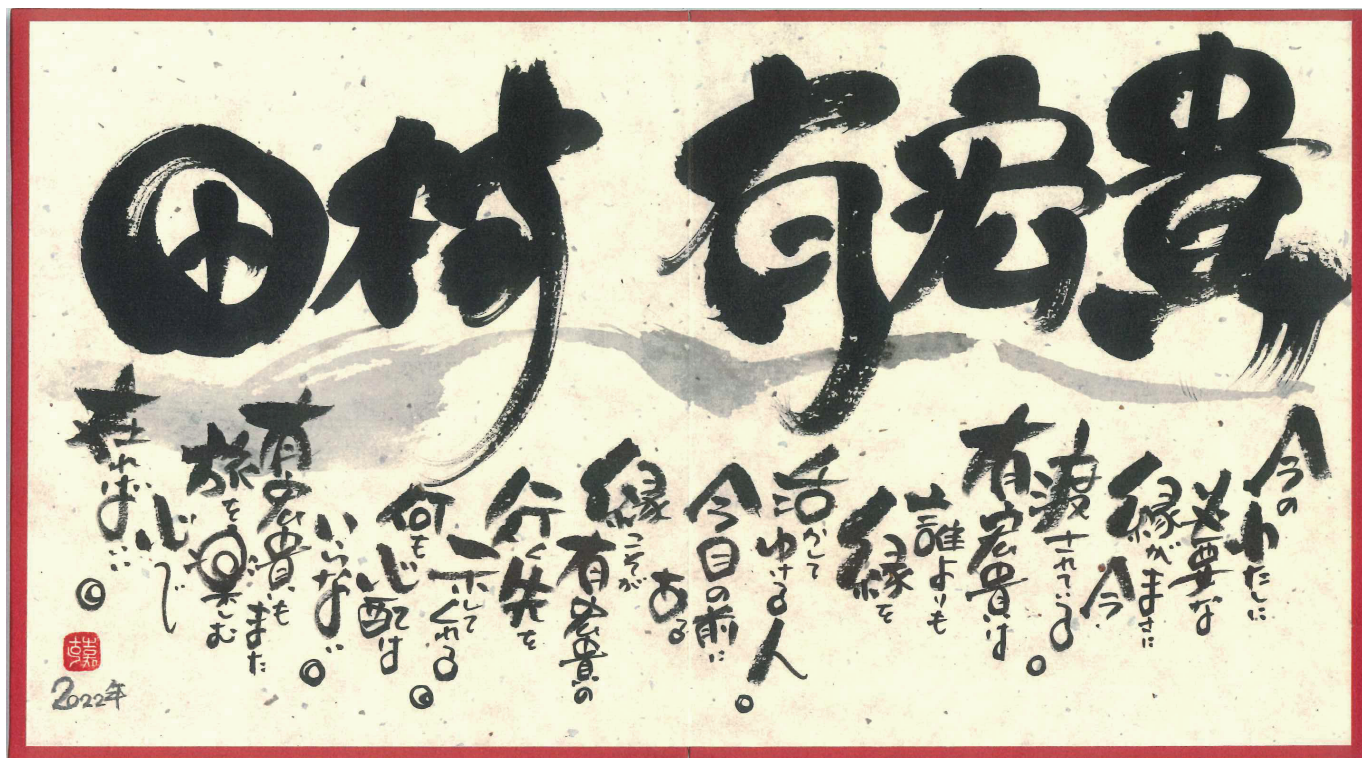
Since 1985



2022. 12.9

Vol. **106**

EIGHTSTAR quarterly magazine



西山嘉克氏による書き下ろし作品

社長就任のご挨拶

拝啓 皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より格別のご支援ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、今年の4月14日にコロナにより他界した創業者の田村富保の後任として、株式会社グッドカンパニー / エイトスター・ダイヤモンドの代表取締役社長に就任致しました田村有宏貴でございます。

当社ではこれまで、田村富保が創り上げたエイトスターの誕生からの夢と理念の実現に向けて、独自の方法でエイトスター・ダイヤモンドとサービスのご提供に努めてまいりました。

2022年9月1日より社長の重責を担い身が引き締まる思いではございますが、今まで自分が異なる業界で培った経験や知識、実績を活用して、父である田村富保と母である湯川れい子が人生をかけて、共に創り上げたエイトスターの歴史を胸に、世界一美しく輝く唯一無二のダイヤモンドだという誇りを持ちながらも、常に学ぶ姿勢と謙虚であり続けること、挑戦をし続けること、エイトスターと同様に自分自身を磨き続けることを忘れずに、強い決意と熱意を持って責務を果たし、当社の更なる成長と発展を社員と共に実現させていく所存です。

甚だ微力ではございますが、今まで田村富保と当社が皆様より賜りましたご厚情を深謝致しますと共に、皆様からのご期待に沿えるよう全身全霊で尽くしてまいりますので、今後も変わらぬご指導ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

2022年11月22日

株式会社グッドカンパニー / エイトスター・ダイヤモンド
代表取締役社長 兼 最高経営責任者

田村有宏貴

ダイヤモンド

私の“ダイヤモンド”を 明日に向かって 元気に歩いて行けるように

音楽評論家 / 作詞家 / エイトスター・ダイヤモンド最高顧問
湯川れい子



令和4年。西暦2022年もあと2ヶ月で終わろうとしています。お元気でいらっしゃいますか？お伺い申し上げます。

最初のコロナ感染者が日本で確認された2020年1月15日から、間もなく丸3年になります。もう3年。まだ3年？きっとその方それぞれにとって、感慨には特別なものがお有りになることでしょう。

私自身は自分がコロナと診断されたのが、今年の1月21日。86歳の誕生日まであと1日という時でした。

結果、軽いと言われていたオミクロン株なのに脱水症状を起こし、水も薬も受け付けなくなって重症化。21日間も入院して、2月15日に無事退院することが出来ました。

一方、エイトスター・ダイヤモンドの創造者であった田村富保、時に駿禮（タカノリ）、熾鴻（タルヒロ）が、同じくコロナの陽性であることが発覚して、自覚症状も熱も無いまま、軽い肺炎を起こしているという診断から入院したのは、私が退院してから3日後の2月18日でした。私の入院をオロオロと心配してくれていたのに、安心して間もなくの発病で、どこも悪く無いのに入院などしたくないと、救急車で病院に着いてからも、帰る素振りを見せて駄々を捏ね、息子と婚約者、甥の山中勝仁を困らせたようです。

そしてせっかく一度は、奇跡的な回復力を見せてくれ

てリハビリ病院に転院したのですが、そのわずか4日後に大きな脳梗塞を発症。そこからは完全に意識が戻らないままに、22日間も荒い呼吸で頑張ってくれましたが、残念ながら4月14日（木）、81歳で遠い世界に旅立って行ってしまいました。

もともとは小児喘息で2歳半くらいの頃から苦しんで、思春期の喘息が治ると言われる成長期になっても治らず。私が出会った30代の働き盛りには、いつもポケットに喘息の発作が起きると使っていた吸入ステロイドの強いお薬を持って、頻繁に使用していました。

これが後に心臓発作にもつながって、やがてペースメーカーを入れることになるのですが、私が田村と結婚していた40代の頃は、まさか81歳まで長生きしてくれるとは考えられないような健康状態でもありました。

確かにゴルフはシングル・プレイヤーでしたし、400人以上のセールスマンを使って、SONYの機器を売る会社を経営。めちゃくちゃな仕事ぶりではありましたが、喘息だから癪癪持ちなのか、癪癪持ちだから喘息なのか、よくひどい発作を起こしては入院。薬が手放せないハラハラするような生活を送っていたものです。

それが大きく変わったのは、結婚してから10年後の1983年。順調だったセールスの仕事に突然嫌気がさ

して、全国展開していた会社を部下に引き渡すと、約1年半ブラブラ。そんな時に、ダイヤモンドと出逢ったのです。そして100%光り輝く世界一のエイトスター・ダイヤモンドを完成させてからは、今こうして思い返してみても、目が眩むような奇跡の連続とも言える魂の旅が始まったのですが、そのあたりの話は、田村の本などをお読み下さった方は、きっとご存知のことでしょう。また不思議なのは、私達夫婦はあれほど劇的な別れを経験したと言うのに、だからこそかも知れませんが、私と田村との間には、まるで激しい戦場で共に戦った戦友のような、男でも女でもない、何もかもを知り尽くした旧友にも似た、深い友情と呼べる交流が、ここ15年ほどずっと続いておりました。

もちろんそこには、二人の間に産まれた息子の存在や、田村にとっては初めてのかわいい孫の存在もありましたけれど・・・。

そして田村が他界して、ドーン!!と重く残されたのが、田村の会社とエイトスター・ダイヤモンドという存在でした。そこには考えてみたことも無かったような、混み入った財務上の問題。そして相続の問題などが待ちかまえておりましたけれど、きっと全てに偶然は無かったのだと思います。

田村が入院した時も、それからの2ヶ月に及ぶ闘病の日々も、毎日のように病院に通い、医師とのやり取りや面倒を見たのは息子でした。田村が入院をしたその日から、集中治療室に入っていた期間も、そして田村がリハビリ病院に転院して喜んだのも束の間、脳梗塞を起こして意識が無くなってからの22日間も、読んで貰えるあても、返信も無いのに、息子は欠かさず毎日病床で苦しんでいる田村に、一日に何度も長文のメールを送っては、父親との心の会話を続けていました。

コロナが始まる直前までは、自分が天職だと心の底から愛していた国際的なプロモーターの世界にあって、ポール・マッカートニー、ザ・ローリング・ストーンズ、テイラー・スウィフト、エド・シーラン、クイーン、シンディ・ローパーなど数々の大物アーティストを招聘。東京、名古屋、大阪、福岡のドーム公演や全国ツアーを成功させておりましたし、常識破りのコンサートとして話題を呼んだ、富士山麓での長渕剛さんの10万人のオール・ナイト・コンサートも、息子が制作・統括、プロデュースして大成功させた日本の音楽史に残る一大イベ

ントとなりました。自分の仕事に集中している時のスーパー・コンピューターのような頭の回転の速さ、発想力と想像力、ブルドーザーのように突き進む行動力、統率力と引率力は、親の私から見ても凄まじいものだと感じたものでした。

それが2020年から、自身の体調とコロナのためにピタリと動けなくなって、文字通り鬱々とした日々を送っていたのですが、でもだからこそ毎日、田村の看病をすることも出来た訳ですし、亡くなった時は通夜から葬儀まで全てを手掛け、喪主として無事に納骨も済ませてくれました。我が子ながら、重い悲しみの中での見事なまでに完璧な作業であり、私一人ではとても不可能な出来事だったと思っています。

そして様々に想い悩み、苦しんで、今もその心中を察するには余りあるものがありますけれど、結果から簡単に申し上げますと、この9月1日からは、田村の長男である田村有宏貴が、“世界一美しく輝くミレニウム・ダイヤモンド”を扱うエイトスター・ダイヤモンドの代表取締役社長として、父親の遺志を受け継ぐ形で、会社を存続させてくれる運びになったことをご報告させていただきます。

田村がエイトスター・ダイヤモンドを完成させてから37年。いつの間にか田村の喘息はすっかり治っておりました。そして、ひたすらエイトスターの美しさの秘密と力を信じ切って、自分は120歳まで生きるのだと、本気で考えるようになっておりました。

その田村と共にエイトスター・ダイヤモンドが完成するプロセスに続いて、目まぐるしく起こった奇跡としか言いようの無い出来事を経験した後に、今度はバブルが弾けると同時に、思いもかけない出来事が連続して起こった私は、その重圧と失意から、顔面麻痺になるなどして入院。持病だったC型肝炎に加えて、ひと頃は初期の膵臓癌にも苦しむ日々が続いておりました。

でもそんな中で、私自身も自分の心の中にあるダイヤモンドとの“ダイヤ問答”を繰り返しながら、86歳の今日まで好きな仕事を追求し、無事に生き抜いて来ることが出来たのは、やはりエイトスターのお陰であったと確信しています。

しかし、そんな私や田村と違って、息子は従来ダイヤモンドには何の関心もなく、神や仏といった目には見えない世界への畏敬の念や、全てに偶然は無く、何事

も必然として起きているという信念はあっても、一歩間違えれば靈感商法とも受け取られかねないスピリチュアルな物の考え方には、むしろ不信の念を強く持っていて、しっかりと現実世界に正面から向き合って生きてきた人間でした。

それが過去に深い確執があって、疎遠だった時期も長かった父親の入院と死をきっかけに、私や田村の書いた本を初めて読んだり、私が経験した様々な物語を聞いたり、また世界のダイヤモンド業界の最高峰であるデ・ビアス社が、西暦2000年になった時、1,000年に1度のミレニアム(千年祭)を記念して、世界中のダイヤモンドの中から、最も完璧に磨かれて美しく輝くダイヤモンドとして、エイトスターが選ばれていること。米国宝石学会(GIA)が最終的に選び出した67,000個の石の中から、最後に残った20,000個に対して、『最も美しく輝くダイヤモンド』としてのシリアル・ナンバーとデ・ビアス社のロゴが刻印され、その中にエイトスター・ダイヤモンド100個が選ばれて、調査部長として審査に当たったメアリー・ジョンソン博士から、「全てのチェックを完璧に満たしたのは、唯一エイトスター・ダイヤモンドでした」というお手紙を頂いていた事実などを知り、生涯をエイトスター・ダイヤモンドに捧げ尽くして生きた父親のためにも、これらの厳正な真実と事実を、自分が世界に知らせるべきだと考えるに至ったようです。

長引くロシアとウクライナ紛争や、地球温暖化がもたらす自然災害の多さなどを見るにつけ、コロナ禍にあえぐ先が見えない今の世界で、これだけ苦しんでいる人が多いのに、贅沢の象徴のように思われているダイヤモンドを売ることに、一体どんな意味があるのだろうか・・・と、私も考えてしまうことがあります。

でも、エイトスター・ダイヤモンドが誕生して、シャーリー・マクレーンから「それこそが私が探していた賢者の石に違いないから見せて」と言われて、田村とカルフォルニアのマリブ・ビーチにあったシャーリーの家を訪れて、シャーリーに持参したダイヤモンドを見せた時のこと。

折しもマリブの海に沈もうとする夕陽にエイトスターをかざしながら、シャーリーが「間違いないわ!これこそ私が探し求めていたロマンシング・ストーンよ!!世界の平和をつかさどる賢者の石だわ!」と叫び、傍に

居たチャネラーのケヴィン・ライアーソンが、2,000年前のキリストの時代に生きていたという高級霊ジョンとのチャネリングで、「この石はダライ・ラマ14世やマイケル・ジャクソンなど、世界平和のために働く9人の人物が持つことになる」と言われてから、ほどなくして、実際にダライ・ラマ様から、「このダイヤを眉間のチャクラに収めたい仏像がある」と言われて、遠くインドにあるチベットの亡命政府のダラム・サラまで行ったことなどを今、懐かしく思い出しています。

そして実際にそこにどれほど意味があったのか、今も解らない事は沢山ありますけれど、その時に勇気づけられた人々や、目には見えない力が働いたかも知れない事だって、無かったとは決して言い切れないと思うのです。

それに私自身が、こうして今も力を貰っているように、ダイヤモンドはいざとなった時に身につけて逃げのびることが出来る、最小の小さなお守りだと考えて頂いても、それはそれで良いのではないのでしょうか。

これから先、私にどれほどのお手伝いが出来るかどうかは解りませんが、私は私の信じる方法で、エイトスター・ダイヤモンドと共に、この世界が、日本が、少しでも平和で穏やかである事を心から願いながら、私の“ダイヤモンド道”を明日に向かって元気に歩いて行けるように願っています。

ここで生前の田村にお示し下さった皆様のご厚情とご信頼に、改めて深く御礼を申し上げます。本当に有難うございました。まだまだ心細い限りではございますけれど、エイトスターの誕生と歴史は尊重しながらも、今までの田村とは違った方法と熱意で、エイトスター・ダイヤモンドの可能性と力を信じて、ひたすら正直に真摯に、前を向いて頑張って生きていこうとしている田村有宏貴と、エイトスター・ダイヤモンドの社員一同を、どうぞ暖かく見守って下さいますよう、心からお願ひして筆を置きます。

来年、令和5年、2023年が、皆様にとって、より良き輝かしい年となりますように強い祈りを込めて。

2022年11月吉日

田村有宏貴